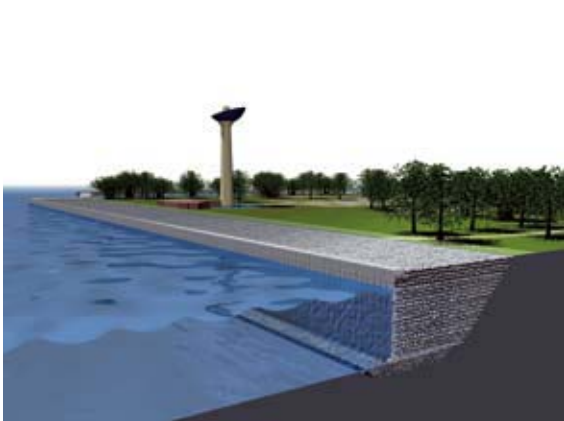


## 礫材の消波機能を活用した 長周期波浪対策施設の現地適用技術

Developments of long period wave absorbing systems using gravel materials and their applicability to harbours

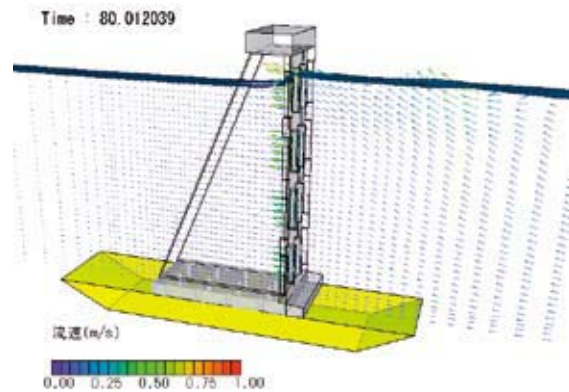
永瀬 恭一 押村 嘉人\*<sup>1</sup>

Kyoichi NAGASE, Katsuhito OSHIMURA



### 目的

港湾に外洋から侵入する長周期波浪対策が早急に求められている。これまで、礫材を用いた消波技術について検討を行ってきたが、新たに透水性を持たせるためにスリットを設けたL型ブロック係船岸を用いた方法を提案して、水理実験ならびに数値解析によりその水理特性を検証した。また、これまでに検討を行ってきたいくつかの形態を有する構造物の消波特性を比較して、実際の港湾で活用する場合の検討資料として整理した。



### 結論

礫による透水層を用いた長周期対策技術について、数値波動水槽技術ならびに水理模型実験を応用して水理特性を検証した。その結果、以下のことが明らかになった。

- スリットを付加したL型ブロック係船岸の背後に礫材を投入する構造を提案した。解析・実験の結果、捨石透過堤と同程度の反射波低減効果が得られた。
- 礫材を消波材として利用することで、様々な施設を提案できることを示した、これまで提案した工法を、現地の条件に応じた形態を採用することが可能なので、港湾での提案・検討に有効な資料を整理することができた。

\*1 土木本部